

# 極楽寺だより



2015(平成27)年6月号

発行所：極楽寺 (浄土真宗本願寺派) ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 夏法座のご案内

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、

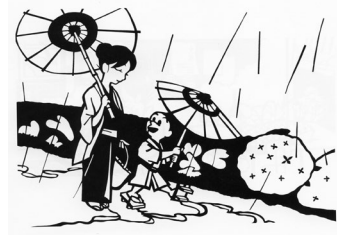
静かにわが身をふりかえる「安居会」

「夏安居」という行事が、お釈迦さま

の頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流そうという、ゆ

かしい夏の法座です。お誘いあわせ、お参り下さい。



六月二十四日(水)  
昼一時半 夜七時半  
六月二十五日(木)  
昼一時半

講師 美祢市秋芳町

明厳寺住職

中島昭念 師



25日昼の席では、ホワンシィ・コーラスの皆さんに歌っていただきます。皆さんも一緒に、楽しく歌って下さい。

ご予約下さい

第52回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

期日：9月10～11日 会場：上中小野 明恩寺

講師：山根光恵 師 ※お寺で送迎致します。遠慮なくお申し出下さい。

# オシエノカケラ



極楽寺だより  
エッセイ

## 「花燃ゆ」特集

# 地に足をつける



### 「正義」の恐ろしさ

大河ドラマ『花燃ゆ』は、吉田松陰の死罪という、前半の大きな山場のひとつが終わり、新しい展開に入っています。

しかし、ドラマが始まってから私の周りでは「松陰って、本当にトラブルメーカーですね。」「あんな人がいたら、家族は大変だ。」という声がよく聞かれました。これは維新後、神格化された松陰が、約百五十年経ってようやく「人間・松陰」として評価されはじめたからではないでしょうか。

人間ですから、良い面と悪い面を持っているのが当たり前。そこが人間の魅力でもあるはず。しかし、松陰の悪い面を語るのが許されない雰囲気というものが実際にあり、時間が経つ中で弛んできたのではないのでしょうか。一坂太郎氏の『吉田松陰とその家族』（中公新書）では、母・滝さんが冗談好きであったことと共に、松陰も家族にはよく駄洒落を言っていたとあります。そんな一面が、もっと掘り起こされていくと面白いのですが。 →

さて、松陰の魅力は様々なところで語られていますので、ここでは困った面について触れたいと思います。松陰は、自らの「志」、「正義」にのめり込むと、ひたすら猪突猛進していきます。それが、安政の大獄（幕府反対派への大弾圧）を指揮した老中の間部詮勝の暗殺計画へと繋がりました。状況や価値観といった時代的制約もありましたが、幕府の要人を殺害することで、時局は打破できると考えたのです。これがきっかけで、松陰は死罪となります。

過剰な「正義」が暴力へと行き着くことは、歴史が証明しています。人間は良い面と悪い面を持っているのが当たり前のはずなのに、「正義」に酔うと、自分の悪い面も相手の良い面も見えなくなり、殺すことへのためらいも、痛みも悲しみも失います。それが純粋であるほどに。これは私たち人間が持つ愚かさであり、現代社会にもつながる課題だと言えるでしょう。

真心で人に接し、捨て身に行動する松陰は、十代後半から二十



代前半の多感な青年、少年たちにとって刺激的で、多大な影響を与えました。一方、楫取素彦（小田村伊之助）は、松陰とは全く違ったタイプだったようです。ひたすら実直、穏やかな性格で、いつも松陰の暴走を引き止める役でもありました。対照的な二人だからこそ、お互いに魅かれ、認め合い、必要としていたのです。ちなみに素彦の人生訓は、「生活の根本は土地の外にない」というものだったそうです。まさに「地に足がついている」ということなのでしょう。これは、本当に大切なことだと思えます。

人生には、思い通りにならないことがある

さて、私はここ数年、草に覆われた中学校のグラウンド整備に関わってきました。土や草にまみれる中で、つくづく「農業って大事だなあ」と思いはじめたのです。それは、TPPや農協改革、食糧自給問題といった、政治・経済の話ではなくて。

農業は自然が相手です。自然の怖ろしさ、大きさを、思い知らされます。何より、自然には敵わないということも。つまり、世の中には思い通りにならないことがある。それが大前提であり、その中で、人生をより良いものにするにはどうすべきかを考える。それが、人間本来の生き方だったのでしよう。

ところが近頃は、頭だけでものを考える人が増えました。そして、人生は思い通りになるのが当たり前、思い通りにいかないとダメだ思う人も増えました。確かに、様々な科学や技術の進歩で、思い通りになることが増え、それを「人類の進化」という人もいます。しかし、それで悩みや苦しみがなくなったかという点、また新たな苦しみが生まれてくる。まさしく二千五百年前に、お釈迦さまの言われた通りです。何より、人間そのものは幼稚になり、退化してはいないでしょうか。

人生は、折り合いをつけなくてはならない

次に、草は取ってもすぐに生えてきますから、農業とは限りのないことに向き合う行為でもあります。だから、どこかで「折り合い」をつけなくてはなりません。「折り合い」というと、妥協や甘えのように受け止められますが、そうではなくて、現実を知るといふこと、分限を知るといふことです。自分の愚かさや弱さ、力のなさを、冷徹に受け止めることでしか、見えないものがあるはず。

（次ページへ続く）



## 根っこのあるヤツは強い

最後に、農業って大事だなあと思うのは、「根っこがある奴は強い」ことを、知らされるからです。草刈機で刈っても刈っても、すぐに生えてくるのは、根っこがしっかり張っているからでしょう。私たちの世代は、「しがらみは切り捨て、大空を舞う鳥のように、自由に思い通りに生きることが幸せだ」というイデオロギーを、テレビやメディアを通して、これでもかと浴びせられ、育てられました。そして「気楽が一番」という感覚の中で、気楽に生きて、気楽に死んで、気楽に人を傷つけ、気楽に人を見捨て、見捨てられるような世の中になりました。しがらみは、鬱陶しいものではありませんが、私を支え、活かし、時にはブレーキにもなり、育てて下さるものです。摘んだ花は、すぐに萎んでしまいますが、根っこがあるからこそ、また花も咲き、実も成っていくのです。地に足は着いていないのでしょうか。社会全体が、フワフワしたものになってはいないのでしょうか。

## 人間の事実に立つ

少し齧っただけの私が、偉そうに言うのはおこがましいのですが、農業って本当に大切なことだと思います。それは、人間その

ものの事実を、突き付けられるからです。どんなに知識があっても、理論を積み重ねても、人間の事実を見失うならば空しいものでしかありません。制限ある身体を持ち、寿命を持ち、愚かさや弱さ、そして温もりや思い出を持っている。そんな人間の事実を生きることの大切さを、もう一度取り戻さなくてはなりません。それがまさに「地に足をつける」ということなのでしょう。親鸞聖人という方は、人間の事実と向き合い、それを身に引き受けて、お念仏の道を歩まれたのです。仏法を単なる知識にせず、人間の事実立ち、人間を実際に生きられました。だからこそ、その歩みが長い歴史を経ても、私たちの心に深く響くのだと思います。

## 地に足がつくからこそ

激情の人・松陰は、やはり魅力的な人だったのでしよう。しかし、いくら素晴らしい思想であっても、人間の事実を離れるなら、空回りするばかりです。実は、楫取素彦が担った役割こそ、人間にとって本当に大切なものではないでしょうか。華やかさばかりがもてはやされ、「縁の下の力持ち」「おかげさま」と言った言葉が使われなくなっている時代だからこそ、「地に足をつける」大切さを、『花燃ゆ』を見ながら考えてみたいと思います。■

news

# 大河ドラマ「花燃ゆ」では描かれない…

## 主人公の姉・寿さんが残した念仏の香り



NHKで放映中の大河ドラマ「花燃ゆ」。幕末から大正時代を生き抜いた吉田松陰の妹・文と家族の物語です。ドラマが始まり、「文の姉である寿は熱心な念仏者で、寿さんが始めた法座が現在も続いています」という情報が多くの方から寄せられました。そこで、山口県長門市を訪ね、寿さん(写真)が残した念仏の香りに触れてきました。

新山口駅から車で約1時間半。日本海を望む山口県長門市三隅。

まず、訪ねたのは村田清風記念館。現在、特別展「楳取素彦と妻・寿」が開かれています(来年1月11



長門市・村田清風記念館で開かれている「楳取素彦と妻・寿」展

日まで無休で開催。入館料200円☎0837-43-2818)。この記念館で週1回、説明員を務める長門市・極楽寺の池信秀見住職に説明を受けました。

寿の夫・楳取素彦は松陰の親友で、幕末の激動期には、長州藩主の側近として国事に奔走し、後に群馬の初代県令を務めた人物。寿は素彦と15歳で結婚し、43歳で亡くなるまで、側で支え続けたそうです。明治3年頃の一時期、要職を辞し隠棲のために楳取夫妻は二条窪という山あいの地に、桜楓山荘と名付けた居を構えました。山火事で自暴自棄になりそうな村人に植林を勧めた素彦。寿は女性に裁縫、子どもに読み書きを教え、夫妻で地域の教育振興に力を注ぎました。そして、母・滝ゆずりの念仏者であった寿は、この地域の人たちの心の安穏を願い、小堂を建てて僧侶を招いて月2回の法座を始めたそうです。素彦は1年、寿は2～3年ほどの滞在だったそうですが、その法座は今も大切に続いているのです。

ぜひとも、その場所に行きたいと思い、法座のお世話をされている同市・宗善寺の藪木暁見住職に二条窪まで案内いただきました。記念館から山手に車で10分ほど行くと、道路脇に「桜楓山荘跡」という看板が見えてきました。柵の中に入ると、「楳取素彦旧宅地」と書かれた

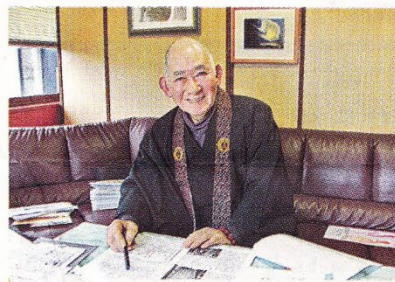


石碑と説明板がありました。二条窪自治会の堀八郎さん(95)と谷村キミエさん(80)は「旧宅の元々の場所は道路の反対側でしたが、道の整備のためこっちに移りました」と(写真上)。



山荘跡の隣には、昭和55年頃に集落の皆さんで建て替えられた小堂がありました。中に入ると、藪木住職が「お講(法座)の時には寿さんが残されたお名号を掛けさせていただいています。今は記念館に展示してあります。現在も2カ月に一度、講を開いてお聴聞されているんですよ」と話してくれました(同中)。寿と集落の人たちが大切にしてお念仏の香りが漂い、140年続く重みを感じました。

最後は、楳取夫妻、特に寿の念仏者としての姿を、代々の住職が伝えてきた極楽寺を訪ねました。池信宏證前住職は「『寿さんは妙好人』と多くの方が讃えています」と語り、同寺宛の寿からの手紙をはじめ、膨大な資料を元に、夫妻が群馬に移った後、真宗の説教所(後に寺院となる)を建立したことや、明治14年念仏しながら往生



寿さんの歴史を丁寧に保存し、今に伝える池信宏證・極楽寺前住職

したことなど、寿の念仏者の姿をわかりやすく教えてくださいました。

ドラマで描かれることのない寿の姿を、長門に足を運んでご覧になってはいかがでしょうか。

「花燃ゆ」ゆかりの山口・長門を訪ねて

## 胸に手を当てて...

息子が小さな頃、「お父さん、お互いさま」ってどういう意味？と尋ねられ、ドキッとしたことがありました。確かに近頃は、責任を押し付け合う姿は目にしても「お互いさま」と責任を取り合うシーンは、テレビドラマでも見ることはありませぬ。何より私自身が使っていないかたのではと反省し、意識して使うように心がけました。

そんな折、頼み事をされたので、「ごきごきばかりに」「お互いさまですか」と言うと、相手がホッとするのが伝わってきたのです。貸し借りではなく、温もりのある関係が生まれたようにも感じられ、これは大切な言葉だなと、あらためて気づかされました。こんなに大切な言葉を使っていないというごとは、その心を見失っているというごとなのでしよう。

考えてみれば、「縁の下の力持ち」という言葉も聞かなくなりました。見えないうちで支えてくださる方への、敬いの心が見失われてきたということではないかと。

## みんなの法話.....

# ことばはこころ

山口・極楽寺住職

池信 秀見

しょうか。いや、そこまで深く物事を考えることのない、薄っぺらな生き方が広がっているのかもしれない。

「胸に手を当てて考える」という言葉も、久しく聞きませぬ

ね。自分を振り返り、どんな生き方しているのかを見つめることは、人間が生きる上で大切なことであるはずなのに。ファッションやヘアスタイルといった外見には気を使っても、自分がどんな生き方をさらしているのかにまで思いが及ばないというのは、いかなるものでしょう。かくなる私も、米沢英雄先生の「自分だけが我慢していると思っただけ、相手から我慢されている」ということがわからないのです」という言葉を聞いて、まず最初に誰かの顔を思い浮かべ、



カット 林 義明

しばしばくしてからようやく顔が赤らむ程度の者なのですが。昔は良くて、今はダメだという話ではありません。ただ、昔は「私は大切なことを忘れてた存在だ」という自覚があったからこそ、言葉にするごときでその心を出さず音も、続けられていたのでしょうか。

### お念仏の歴史の中に

もう一つ言えば、ひと昔前までは牛や豚を「育てる」と言いました。ところが今やニュースでは、牛や豚を「生産する」と

当たり前のように言い切っています。気がつけば「消費する」「投資する」など、私たちの生活を経済用語であらわす時代になりました。海の魚は「海産資源」、木は「森林資源」、景色は「観光資源」で、人は「人的資源」だそうです。

確かに経済は大切なことですが、それがすべてと偏ってしまいうことで、役に立つか、お金になるかどうかが判断基準となりました。いのちを、自然の恵みを「いたたく」という謙虚さは失われ、「資源」としか見ない傲慢な考え方が広がっています。「いたたくまします」「ひ馳走さま」が言えなくなるはず。言葉が失われるとは、心が失われるということです。「お念仏の声が聞こえなくなった」とも同様です。お念仏を称え、お念仏によびかけられ、お念仏に育てられた私たちの先輩方の歩みが、そしてお念仏に込められた心が、見失われているということなのでしょう。

私のお念仏の歴史が、お念仏を称え、お念仏を先立ち、お念仏を称え、歩んでくださる方があった。そして、その人の前にも歩まれた人があり、その人の前にも、その人の前にも...とさかのぼれば、親鸞聖人はもううんのこころ、たくさんの人々が連なる、長い長いお念仏の歴史があったのです。その歩みが、今私のごころにまで至り届き、大切な心を伝えていく。これってすごくないですか。ならば、道を消すわけにはいかないでしょう。お念仏を称え、その心を伝えていく歴史の歩みに、私も踏み出していかねばと強く思っています。

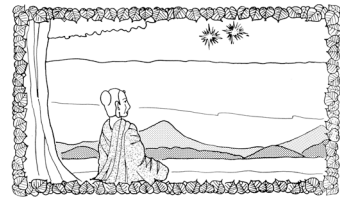
でも、よくよく「胸に手を当てて考える」をみれば、私などお寺で育てられ住職になっていなかったら、大切な言葉を見失っていてもまったく気づかないタイプです。こんな私もこうして育てられていると思うと、たってお念仏のはたらきに頭が下がるほかありません。

本願寺新報

(西本願寺の新聞)

に、住職の法話が掲載されました。

本願寺新報5月1日(金)



## 極楽寺揭示伝道 けいじてんどう

損か得か 極楽寺揭示伝道  
人間のものさし  
嘘かまことか  
仏さまのものさし



## 6月の言葉

クリきました。いえ、いえ、好きだからではないのです。大切なことだと思っからこそ、引き受けているのです。

私たちは、好き嫌い、損得で考える人を「利己的な人」だと言います。でも、本当に自分の利益を大切に思うのなら、どうすれば自分

が最も幸せに生きられるかを考えるでしょう。まずは、健康ですよね。いくら好きだからと、暴飲暴食は後々大変なことになりかねません。

精神的な安定も大事ですし、家族の仲が良くて、周りの人から愛されて、尊ばれて、親しく信頼できる友人がいて・・・あと、社会が

平和で、政治や経済が安定していることも必要。自分の国だけ良くても、周囲の国と険悪だったら、落ち着きません。環境が破壊されても

大変ですし、治安が良くないと困ります。いじめや差別があれば、その矛先がいつこちらに向けられるかと、ビクビクしなくてはなりません。

つまり私の幸せと、私を取り巻く社会は、切り離すことができないのです。本当の「利己的な人」とは、「自分にとつて大切なこと」を行える人のことを言うのでしよう。近頃

言われるところの「利己的」とは、単に欲望に流されて自分を見失った人であり、自分を大切にできていない人のことなのです。(次ページへ続く)



投打の二刀流で有名な、プロ野球・北海道日本ハムファイターズの  
大谷翔平選手は、高校時代の監督から「自分のやりたいことよりも、  
自分にとって大切なことをやろう」と指導されたそうです。やりたい

ことと、大切なことは違います。ネットやゲームがしたいからと、勉強や練習をサボれば自分のためにはなりません。やりたいことがかえ

って自分を堕落させ、成長を阻害することは、いくらでもあります。誘惑や一時の感情と上手につきあえず、自分を見失うこと

は大人でもありがちな話でしょう。何より、「自分にとつて大切なこと」を積み重ねてきたからこそ、大谷選手の活躍もあるのですから。

近頃は、好き嫌い、損得だけをものさし(判断基準)にする人が増えました。私も先日、PTA会長を「好きで

やっているんでしょう?」「大変ですね。最初から受けなかったら良かったのに。」と面と向かって言われ、ガッ

仏様の悟りの境地を、自利利他円満と言われます。自己を利すること  
が、そのまま他者を利することではなければ、悟り（真実）とは言え  
ない。世界は繋がりが合い、切り離すことができないのが、「まこと」  
の有り様なのだと、仏法では教えられます。そのことに気づかな  
ければ、迷いはますます深まり、自分の人生をますます粗末に扱って  
しまうようです。■



## 5月の言葉

東井義雄先生の詩『どこへいっても どんなに逆ってみても』  
は、私の大好きな詩のひとつです。

「座敷がわたしを下からささえてくれる  
廊下に出る 廊下の床が わたしをささえていてくれる  
便所へ行く 便所の床が わたしをささえていてくれる  
大地に下り立つ 大地がわたしをささえていてくれる  
どこへいっても 何をしているときにも  
忘れているときにも 怒っているときにも

その わたしを ささえてくれているものがある  
とびあがってみた でも やはり おちる以外仕方のない わたし  
それを 待ってて ささえてくれるものがある  
どこへいっても どんなに 逆ってみても  
その わたしを 待ち だきとり ささえつづけてくれるものがある  
みんなが 無視し 見放しても 無視することなく 見放すことなく  
ささえつづけてくれるものがある」 (東井義雄)

私たちは、「自分で立つ」と思っていますが、支える大地が  
なければ、立つことができません。自力だと思込していることが、  
実は多くの支えによって成り立っているのです。近頃は、「自己  
責任」という言葉が独り歩きしていますが、自分の人生を自分  
の力だけで生き抜こうなんて、まさしく傲慢だと言えるでしょ  
う。逆に、支えられていることにふんぞり返り、責任を押し付  
けるだけのクレーム的態度も傲慢ではあります。

『他力資本主義』という本を書かれた湯川カナさんは、「自  
己責任論で語れるほど、世界は甘くない」と言われています。

◇ 今の日本では「がんばれば報われる」というロジックが、  
強い力を持っている。逆に「報われないのは、がんばりが足ら



ないからだ」となってしまふ。そうすると、どこまでも、自分を責めることになる。

◇ 世界は、コントロールできない。できないのにも関わらず、やろうとするから苦しみが生まれる。

◇ 「自分が正しい」ということは、まわりが全部間違っているということ。（『他力資本主義』徳間書店より）

湯川さんの指摘は、仏教的です。自己責任論では、失敗はすべて自分のものになります。それを抱えきれぬほど人間は強くない。にもかかわらず、失敗すれば叩かれ、貶められ、傷つけられる。TVやメディアはそれを、面白おかしく取り上げ、視聴率を稼いでいます。これでは、いつ自分の番が来るかわからないと、ビクビクしながらしか生きられません。責任って、かつては取り合うものでした。ところが、いつしか押し付け合うものになりました。自己責任を叫ぶほど、皮肉にも無責任な世の中が広がったのです。

湯川さんは、こうも言われます。

◇ 世界がコントロールできないことが心身で受けとめられると、人の心は「開き」ます。世界が「開き」ます。

◇ 勇気をふるって、おずおずと手を差し出すとき、必ず同時に、世界のどこかから、あなたに向かって手が差し伸べら

れます。あなたが手を差し出した瞬間に、世界が在り方を変えます。ちょうどまさに、あなたへと手を差し伸べるようなかたちに。（『他力資本主義』徳間書店より）

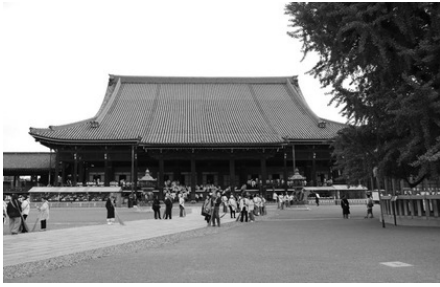
それは、手を差し出した瞬間に、差し伸べられるものではないのでしょうか。すでに与えられ、支えられていたことに気づくということでもあるのです。この気づきは、これまでの過去を違った景色に変えていきます。同時に、はねのけていた手を素直に握れるようになることで、未来への生き方も変わるのです。

これは、人間関係だけに留まりません。この私の存在を、私が忘れていようが、逆らっていようが底の底から支えて下さる大地がある。それを私たちの先輩方は、「阿弥陀の大地」といだけられました。私たちには、どんな時にも受けとめ、支えて下さる阿弥陀様の世界があるのだと。

だからこそ、安心してずっとこけられるのです。そして、再び立ち上がることができるようです。支えられる大地に気づくからこそ、自分の人生に対して、本当に責任をとっていき生き方が開かれるのだと教えられますのです。■

## 第33回 児童念仏奉仕団のご案内

大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非、ご参加のお呼びかけをお願いします。



- ◆期 日 2015(平成27)年  
7月27日(月)～29日(水) 二泊三日  
本願寺参拝 大阪ユニバーサルスタジオジャパン
- ◆対 象 小学三年生～中学一年生
- ◆参加費 41,000円(中学生は、43,000円)
- ◆申込み 7月5日までに極楽寺へ ※ 詳細は、お寺へおたずね下さい。

### 県外に在住のご門徒の皆さまへ



遠慮なく  
お電話を

近頃、県外のご門徒が亡くなられた場合、葬儀はその土地のお寺で行い、法事を極楽寺に依頼されるというケースがあります。それは、まったく問題ありません。

ただ、関東の方では、法名に高額なお布施を要求される場合があります、それが大きな負担になられる場合もあるようです。そんな時には、極楽寺へご相談下さい。時間的に可能であれば、極楽寺から出向くこともいたします。

法名だけでも、極楽寺から差し上げることもできます。(法名料をいただくようなことは、しておりません。)地域によっては、信頼できるお寺さんを紹介することもできます。何でも気軽に、極楽寺へご相談下さい。お急ぎの場合は、深夜でも結構です。お電話下さい。できる限り、お力添えさせていただきます。

□今年、本当にバタバタしています。日々を過ごすと言うよりも、こなしているようで反省しきりです。□3月ようやく、中学校PTA会長が終わりました。嬉しいことも、悔しいことも経験させていただいた二年間でした。5月からは教育委員の仕事が始まります。会長の経験を活かして、現場の先生方がパフォーマンスを發揮できるような環境作りに心がけたいと思います。□次男が、三隅中野球部で5年ぶりの県大会出場を勝ち取りました。県では一回戦で負けてしまいましたが、みんな小学生の時から一緒にやっているメンバー。彼らの成長する姿が、とても嬉しく楽しみです。(住職)